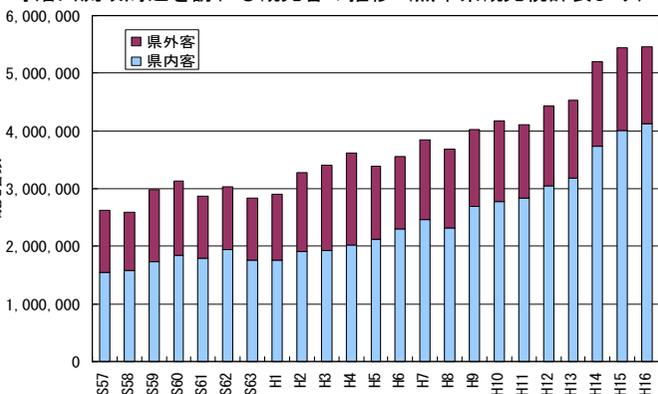


球磨川の河川利用

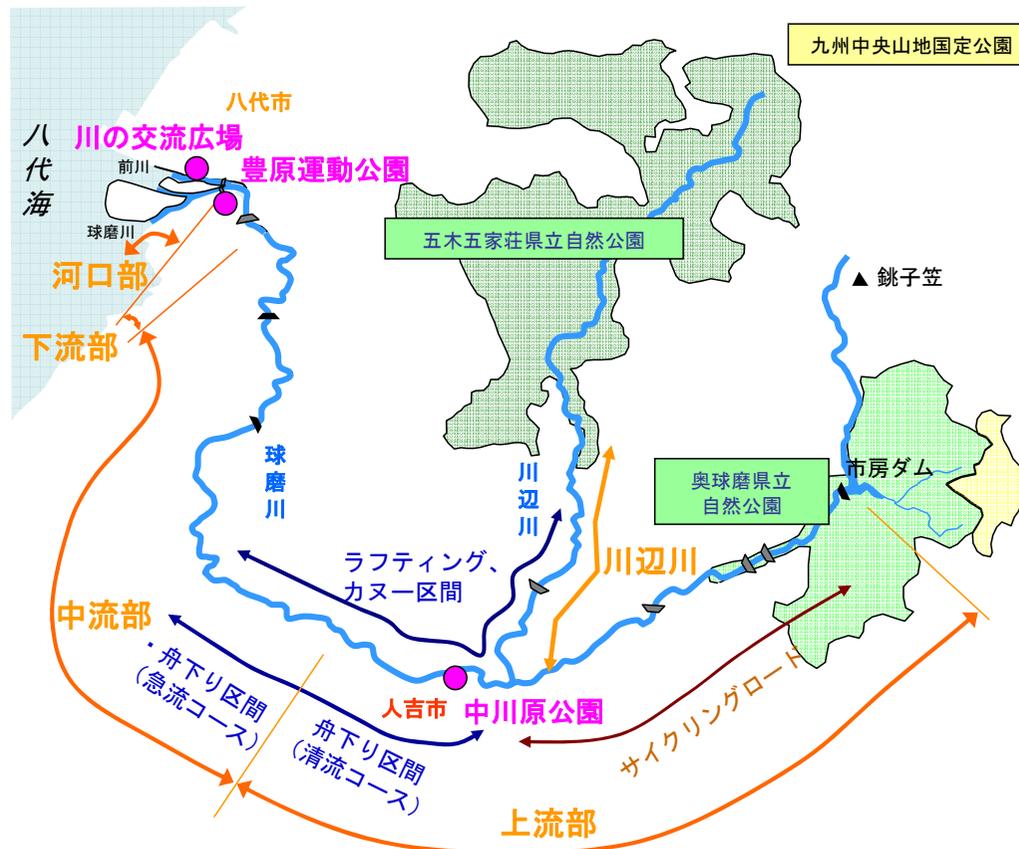
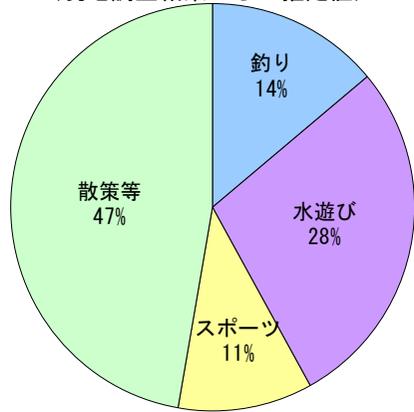
球磨川流域周辺に訪れる観光客は近年は増加傾向にあり、年間約500万人が訪れ、そのうちの約30%が県外客である。
また、河川の利用は平成15年度の調査結果からの推定値では約114万人。そのうちの42%が水遊び（舟下り・カヌー等）や釣りの利用者であり、水面利用が多い。

球磨川流域周辺を訪れる観光客の推移（熊本県観光統計表より）



※球磨川流域周辺とは八代地域（八代市、氷川町）と人吉・球磨地域（人吉市、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、球磨村、山江村、相良村、五木村、水上村）

H15年度の球磨川の利用別の割合（現地調査結果からの推定値）



河口部・下流部の利用

- ・堤防沿いの散策
- ・高水敷の運動公園でのスポーツ等のレクリエーション活動や花火大会等のイベント



中流部の利用

- ・舟下り（急流コース）やラフティング、カヌー
- ・アユ釣り



上流部、川辺川の利用

- ・舟下り（清流コース）やラフティング、カヌー
- ・アユ釣り
- ・市街部での散策
- ・市街部より上流までのサイクリング



源流部の利用

- ・市房ダムにおけるカヌー体験
- ・桜や紅葉などの観光



河川利用の状況（河口部～下流部）

高水敷に整備された運動公園は、スポーツ、散策、水遊び等のレクリエーション活動や『全国花火競技大会』等のイベントに利用されている。



河川利用の取り組み事例

- 国、県及び八代市が連携して河川、港湾、公園の整備を一体的に行い、人々が集う憩いの場（水辺プラザ）を整備を実施。
- 朝市、散策、施設利用など多くの人が集う交流広場となっている。



豊原運動公園の利用状況



せせらぎ水路の利用状況



花火大会

※「水辺プラザ」とは、川を基軸に歴史・文化や豊かな自然等を素材にした流域の人々の交流ネットワークを地域に構築し、この交流のネットワークの核となる交流拠点として親水、自然の学習、休憩等の機能を有する憩いの場で、市町村と連携して整備を行う。

散策路として利用されている前川堤防へのアクセス改善のため、お年寄りや障害者の方も通行しやすい緩やかな坂路に改良。

萩原堤防は以前、散策で多くの人に利用されていたが、近年ヤブが繁茂し、水辺に近づきにくくなっている。



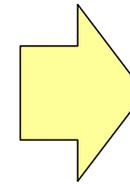
S30年代の萩原堤防



現在の萩原堤防



整備前



整備後

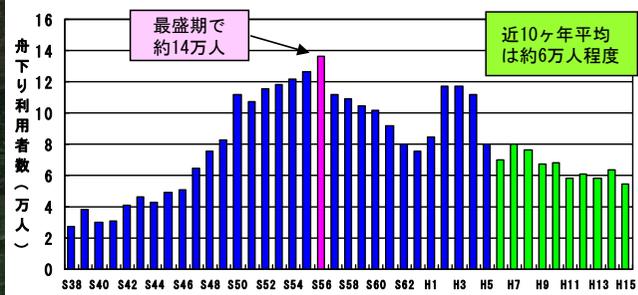
- 河口部にある貴重な生物の生息場となっている干潟を保全するとともに、関係機関と連携し、地域振興・環境学習の場としての整備を行い、沿岸地域の活性化に寄与。
- 関係機関と連携し、水辺に近づきやすい親水空間の整備や、より利用しやすい堤防沿いの散策路等の整備を行うことで各施設間の導線の確保を図る。
- 高水敷に整備されたスポーツ、散策、水遊び等のレクリエーション活動の場の保全

河川利用の状況（中流部）

名称の付いた巨岩や瀬が存在。ダイナミックな流れが30kmに渡って連続し、観光シンボルとなっている舟下りの急流コースや近年はラフティングの利用者が多い。



「球磨川下り」の利用者数は最盛期で年間延べ約14万人であったが、近年は延べ6万人程度で推移している



【舟下り（急流）】

人吉・球磨地方の観光シンボル



【ラフティング】

九州唯一のラフティングコース



舟下りの景観シンボルとなっている巨岩（虎岩）



槍倒しの瀬付近に、熊本県の天然記念物に指定されている「メガロドン化石群」が存在



※メガロドン
約4億年前に地球上に出現し、約1億年前頃までに生息し続けた二枚貝

河川利用の取り組み事例

魚道整備時に、魚道観察施設を整備しており、環境学習の場として利用されている。

荒瀬ダム魚道観察施設「あゆみ館」



「あゆみ館」の利用状況



瀬戸石ダム魚道観察施設「川のとっとと館」



魚類の遡上状況



毎年『全国大鮎釣り選手権大会』が開催されるなど、大型の鮎を求めて多くの釣り人が訪れている。

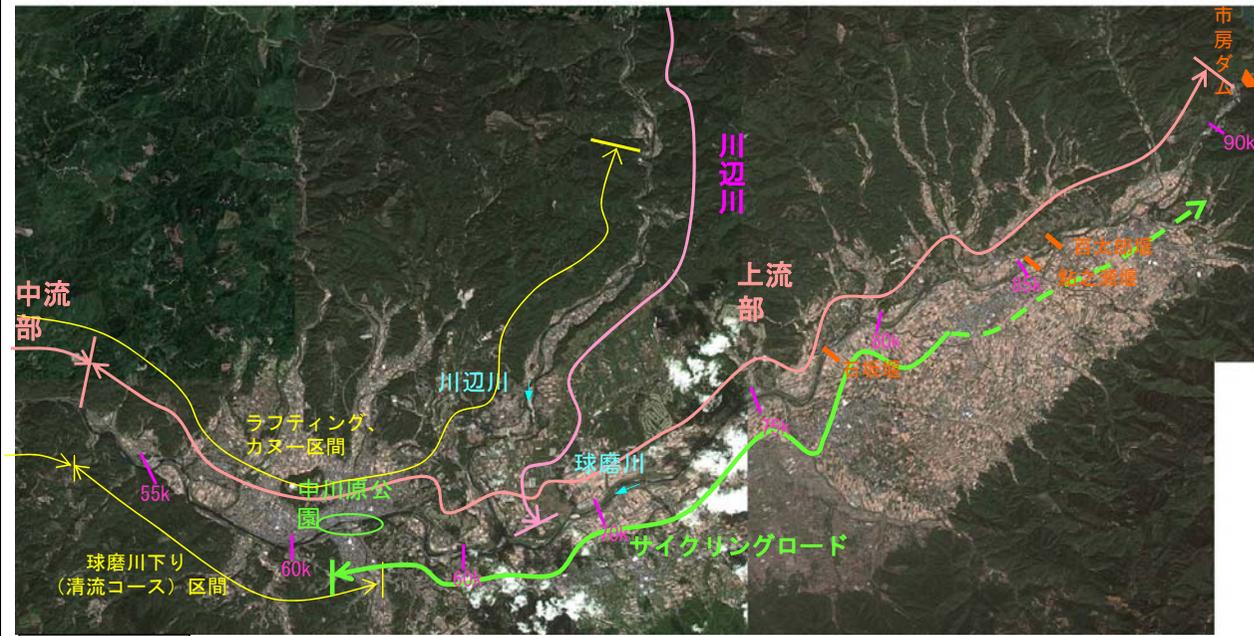


二俣の瀬



- キャンプ・釣り・ラフティング等の良好なアウトドア空間を維持するために、ダイナミックな水の流れや良好な自然環境の保全に努める。
- 峻厳でダイナミックな景観に配慮した整備に努める。
- アユの良好な生息場となっている瀬・淵の保全を図る。
- より多くの利用を目指し、関係自治体と連携し、舟下り等の河川利用やダイナミックな景観に配慮した川の中継拠点（水辺プラザ等）や環境学習の場の整備を図る。

河川利用の状況（上流部、川辺川及び源流部）



川辺川

- 水面はカヌー等の水遊びに、高水敷はキャンプやイベント会場として利用。
- 良好なアユの生息場である瀬・淵が分布し、アユ釣り等の利用者も多い。

高水敷の利用状況



水面利用の状況



アユ釣りの状況



- 関係機関と連携し、良好な親水空間及び水面利用の場の保全
- 良好なアユの生息場となっている瀬・淵の保全

源流部

- 市房ダム湖畔は、春には2万本もの桜が植栽され桜の名所として、多くの観光客で賑わい、夏には、ダム湖を利用したカヌー等の水面利用が盛ん。
- 市房ダム湖面において、アオコによる景観障害が発生。

多くの観光客の利用



水面利用の状況



- 関係機関と連携し、カヌー等の水面利用の場の保全及び水質の改善

上流部

- 人吉市街部では川沿いに人吉城趾や多数の温泉旅館、中川原公園があり散策やイベント会場として利用。
- 人吉から上流部にはサイクリングロードが整備され、一般市民に利用されている。
- 高水敷にはバラ科の原種であるツクシイバラが生育しており、地域住民による保存会「球磨川ツクシイバラの会」が結成。
- 中流部同様に球磨川下り（清流コース）やアユ釣り等の利用者も多い。

人吉城趾の状況



夜間にライトアップされ日中だけでなく、夜間にも散策に利用されている。

中川原公園でのイベント



球磨川ツクシイバラの会の活動
(人吉新聞18年5月20日)



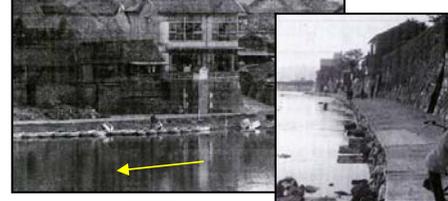
サイクリングロードの利用状況



※錦町役場HPより

過去と比べると河川改修により水辺との距離が遠くなっている。

昭和40年の状況



現在の状況



河川利用の取り組み事例

- 人吉市内の球磨川河畔に、夜間散策時の危険防止、水防活動時の事故防止のために照明を設置。



- 「九州の小京都」と呼ばれる人吉市街部では、人吉城趾等の歴史の香り高い景観に融合し、関係機関と連携し、心に残る河川空間の創造を図る。
- 観光のシンボルである舟下りと水辺空間の利便性の向上を図るため、関係機関と連携し、散策路等の整備を図る。
- 人吉から上流の球磨川周辺には、豊かな自然や情緒あふれる名所旧跡が多数存在しており、その自然や歴史・文化を身近に感じる事の出来るサイクリングロードの利便性の向上を図るため、中継拠点（水辺プラザ等）等を整備を図る。
- 雄大・魅力的な景観や良好なアユの生息場となっている瀬・淵の保全
- 高水敷の利用・活用の際の自然環境への配慮